

公開講座通信

1
2017

1名さまから受講できる、集合型研修サービス。低予算、受講対象者が少人数でも、研修効果の高い集合型研修が受けられます

今月のテーマ

受講者選択型の自己啓発教育制度の理想形とは

カフェテリア型研修プラン

従業員の知識やスキルの向上を図るための教育制度として、好きな研修を自分で選んで受講できる、いわゆる「カフェテリア形式」の研修に関心を持つ企業・団体が増えてきています。この制度のメリットとしては、受講者一人ひとりのニーズに合った研修を受講させることができるため、全員一律で受けさせる集合研修と比べて費用対効果が高いことが挙げられます。採用人材の多様化が進む中、個々に必要とする知識やスキルには当然違いがあり、必要なタイミングで必要な研修を受講させたいという企業側のニーズが高まっています。そんな背景もあって、企業によっては、様々な研修プログラムを独自で企画し、カフェテリア形式での自己啓発型研修制度として展開しているところも少なくありません。

一方で、こうした自己啓発型の研修制度については、いわゆる「勉強好き」の社員には好評である一方で、本当に勉強して欲しい人にはなかなか受講してもらえない、というジレンマを抱えがちです。また、忙しい職場では、強制的に参加が求められる「集合研修」ならともかく、自由選択型の自己啓発型研修に出たいという部下に対して、上司があまりいい顔をしないという話もよく耳にします。

さらに、従業員が必要とする様々な研修プログラムを全て自前で用意することは、大企業でもない限り、なかなかできるものではありません。提供する研修プログラムに魅力的な選択肢が無ければ、従業員の受講意欲も湧かず、折角の教育制度があまり活用されない、という結果にもなりがちです。

そんなデメリットを回避する策として、「選択型研修の外部化」を検討されるケースが増えていきます。社外で開催されているオープンセミナーや公開講座を活用し、その幅広い研修プログラムを社内の研修体系に組み込んで提供することで、さほど大きくない企業・団体であっても、豊富なバリエーションの研修を従業員に提供することが可能になります。

その一方で、「ある程度受講できる研修を限定したい」「利用する従業員の偏りを無くしたい」という要望を叶えるためには、自由選択式とはいえ、ある程度人事教育部門側で受講する研修をコントロールできる仕組みが必要となります。また、職場の直属上司の理解を得るためには、いつまでにどんな研修を受講しなければいけないといった資格要件を整えた上で、受講申請の承認制度を作ることも必要です。効果的な「選択型研修の外部化」を進めるためには、豊富なプログラムを持つセミナー会社を選ぶと同時に、その活用を促進する仕組みを導入することもあわせて検討することが大事だといえるでしょう。

豊富なプログラム

+

管理しやすい受講システム

||

育成方針に沿った費用対効果の高い
カフェテリア型研修の実現

【コミュニケーション研修】

～きっかけを作る雑談力向上編

ビジネスパーソンに求められるコミュニケーションスキルのひとつとして「雑談力」が謳われています。業種や職種に関わらず、人と人が良好な関係性を持ち、円滑に仕事を進めていくうえで必要とされる「雑談」について、その意義を考えていただき、具体的にどのように雑談を繰り広げるかのポイントを体得していただきます。

【秘書研修】

～秘書としての仕事の仕方

秘書として仕事をするうえでの心構えと、その仕事をスムーズにこなすための具体的なスキルを学びます。これから秘書をする方、秘書という肩書ではないものの、秘書的な役割を担う方にもオススメの内容です。

NEW
新作研修